令和４年度　中高一貫だより　第３号（通算 71 号）　　令和４年 11 月 22 日発行

中高一貫だより

＜編集・発行＞
えりも地区連携型
中高一貫教育
推進委員会事務局

「環境教育 百人浜に学ぶ」フィールド学習Ｂ～高校での取組～

９月 14 日（水）、中高一貫教育カリキュラムの一つである「百人浜フィールド学習Ｂ」を行いました。この事業は、国が 1953（昭和 28）年から行っている百人浜治山緑化事業を、2006（平成 18）年から中高一貫の郷土学習・環境教育に取り入れ実施しているものです。６月に中学生が植樹、９月に高校生が枝打ちすることで、さらなる緑化と先人が守ってきた森林の保全に取り組んでいます。

はじめに、えりも高校体育館にて日高地域林業担い手確保推進協議会の方々から林業についての説明を受け理解を深めました。林業は長い年月をかけて行う大きなプロジェクトであること、今の日高地区の森林は先人たちの緑化活動のもとにあることなどを学びました。

終了後、現地へ移動し、中学校１年生の時に植樹した木々の成長を確かめました。自分が植樹した木には、そのことがわかるようにプレートがついています。自分の名前を見つけたときには、歓喜の声が上がりました。

その後、枝打ち箇所に移動して、枝打ち作業を約１時間実施しました。通気を良くし、土壌に光を当てて、木がより丈夫に成長できるようにと真剣に枝落としを行う姿が見られました。

最後に、日高南部森林管理署より生徒全員に記念品をいただきました。今年度も百人浜フィールド学習を通して、先人たちから続くえりもの治山事業に、地元の高校生が関わることができました。

生徒の感想の一部を紹介します。

・林業は枝切りや周りに生えている草を刈ったりして木の成長を助けていたりして、このような仕事をする人がいないと木はしっかりと育たないのだということを学びました。

・中学生の時に植えた木を見て成長するのにはとても時間がかかるなと思いました。枝切りした時は少しの時間でも大変だった。作業前と作業後では外から見た森の中の風景が日光が入って違うように見えて、やりがいを感じられました。

進路別ガイダンス

10 月 12 日（水）、中学３年生と、高校生全学年を対象に、進路別ガイダンスが行われました。今年度は 12 講座開講し、それぞれの興味関心に合わせて受講しました。生徒は、「目的を持って働くことが大切だと思った。」、「社会に出ても恥ずかしくないマナーを身に付けるべきだと思った。」などと話していました。

一日体験入学

10 月 26 日（水）、えりも高校にて、一日体験入学が行われ、えりも中学校３年生と保護者の方、様似中学校３年生の生徒にも参加していただきました。えりも高校での学びや進路についての説明を行った後、生徒会役員によるえりも高校の一日と三大行事の紹介がありました。

全大会後には高校教員による体験授業を行いました。中学生のアンケートからは、「高校で学ぶために、中学校で今、何をすべきか考えることができた。」、「授業が少人数で、学びやすい雰囲気だった」と、それぞれの進路を考える上での参考になったようです。

中学生面談

11 月 11 日（金）、えりも中学校の３年生をえりも高校に招き、中学生面談を行いました。

この取り組みは中高一貫教育事業のひとつで、中学生の面接練習を通して自己理解を深めるとともに、進路意識を高められるよう、高校の教員が指導します。

中学生面談に臨んだ中学生からは「緊張しています。」という声が多く聞かれましたが、面接が始まると質問に対して自身の言葉ではっきりと返答する姿が見られました。面接終了後は、ホッとした様子で面接会場を後にしていました。

来年の４月、皆さんとえりも高校で会えるのを心待ちにしています！